

チャペック兄弟と子どもの世界

～20世紀はじめ、チェコのマルチアーティスト

Those Children Keep on Playing; Children's Themes in the Works of the Čapek Brothers



ヨゼフ・チャペック 《花を持つ少女》
油彩、カンヴァス 1934年

2018年4月7日(土)～5月27日(日)

■展覧会概要■

20世紀初頭から活躍した、中欧チェコの芸術家、兄ヨゼフ・チャペック（1887-1945）と弟カレル・チャペック（1890-1938）の兄弟。ヨゼフはキュビズムの画家として数々の作品を発表し、それにとどまらずカレルの著書の装丁を手がけ、また自身も多くの著作を遺しました。また、カレルは文筆家として、第二次世界大戦前の不安定な社会において、多くの新聞記事、戯曲、旅行記、批評などを発表しました。二人は戯曲などを多数共同制作し、中でも1920年発表の戯曲『R.U.R.』で「ロボット」という言葉を生み出したことで知られています。

また、二人は子どもをテーマにした作品も多く発表しています。ヨゼフが挿絵を手がけた童話『長い長いお医者さんの話』、カレルが愛犬「ダーシェンカ」を写真とイラストで紹介した本など、日本でも有名な作品が挙げられます。本展は、二人の故国チェコの世界遺産都市クトナー・ホラーに開館した、現代美術館 GASK で開催された展覧会を基に、子どもの心を持ち続けた兄弟の作品を、その生涯とともに紹介するものです。

■チャペック兄弟■

兄弟二人の作品を、「子どもの視点」、「おとぎ話」、「いぬとねこ」、「様々な仕事」、「子どものモチーフ」の5つのテーマで紹介します。

*画家である兄のヨゼフ・チャペックのパステル画(図1)、油彩画(図2)、挿絵原画(図3)、ドローイングなど

*文筆家である弟カレル・チャペックの写真(図4)や新聞記事等

*二人で手がけた多くの出版物

ヨゼフは1910年代に、フランスのパリやドイツのベルリンで、当時、活動が盛んになったキュビズムに参加するとともに、プリミティヴアートに関心を持ち、深く研究し、それに基づく絵画を制作しました。一方、カレルは同時期に詩や散文、短編を発表するなど、作家として歩み始めます。また、二人は「チャペック兄弟」として共作した短編集を発表します。

20年代には、二人はともに戯曲や小説を発表し、それは劇場で上演される

ようになります。その中には、発表からわずか4年で日本の築地小劇場で上演された戯曲もあります(『R.U.R.(ロボット)』(図5))。

30年代になると、ファシズムの台頭に対し危機感を抱いたカレルは、マサリク大統領との交流の中で、チェコスロヴァキアの情勢に警鐘を鳴らします。そうした中で、二人は童話を発表し、絵画や著述を通して子どもへの視線を注ぎます。「子ども達にデモクラシーを」という団



図2 《ボールで遊ぶ二人の少年》
1928年 油彩、カンヴァス

体を作り、恵まれない子どもたちの支援にも取り組みました。

ただ、彼らは子どもに向けて発信しただけではなく、子どもの持つ世界の美しさや、まだ何者にもなり得る段階でのいわゆる未開発な状態のプリミティヴな表現方法に心惹かれ、それを自分たちでも表現したのでした。



図5 築地小劇場のポスター 1924年 プラハ10区所蔵
*カレルの戯曲『R.U.R.(ロボット)』は、日本で「人造人間」と題して上演された。このポスターは日本からカレルへ送られたものと思われる

子どもの世界は私たちの世界そのもの、でもそれは私たちの世界よりも美しく、充実していて、驚きにあふれている… ヨゼフ・チャペック 1918年
私は今なお、謎の世界を知る子どものままだ
カレル・チャペック 1934年



図1 《箱を持つ幼い少女》
1930年代 パステル、紙



図3 『こいぬとこねこは愉快な仲間』原画
1929年 インク、紙
スロヴァキア国立美術館所蔵

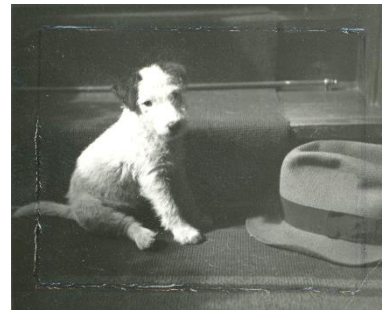


図4 『ダーシェンカ』写真
1932年 チェコ国立文学館所蔵

兄ヨゼフ(右)と弟カレル(左)

■会期中のイベント■

◆特別講演会

「チャペック兄弟の作品について」

4月8日（日）午後2時～ 地下2階ホール

講師：パヴラ・ペチンコヴァー氏（本展監修者、元プラハ工芸美術大学教授、チャペック研究者）

通訳：阿部賢一氏（東京大学准教授）

*無料（要入館料） *定員80名 *事前予約の必要はありません

*直接、地下2階ホールへお越しください。

◆映画上映会

「20世紀前半のチェコのアニメーション」

『二人の少年と一匹の犬が走り回るのを見てごらん！』（監督：カレル・ドダル、ヘルミナ・ティールロヴァー 1925年 7分）など短編を数本上映します

4月15日（日）・5月6日（日）各日午後2時～ 地下2階ホール

*無料（要入館料） *定員60名 *午後1時から地下2階で整理券配布

*詳細はHPでお知らせします

*DVDでの上映です

◆ワークショップ

「子犬の切り紙でモビールづくり」

ダーシェンカなどの形を切り抜いた色紙で簡単なモビールをつくります

4月28日（土）午前11時～/午後1時～/2時～/3時～ 地下2階ホール

*無料（要入館料） *各回約20名（自由参加）

*所要時間15分程度 *材料がなくなり次第終了

◆コンサート

「ヴァイオリンとピアノによるチェコのクラシック音楽」

5月13日（日）午後2時～ 地下2階ホール

出演：新山開（ヴァイオリン）、新山茜（ピアノ）

*無料（要入館料） *定員80名

*往復はがきによる事前申込が必要です 締切4月20日（金）必着

○〒・住所・氏名・年齢・日中連絡可能な電話番号・参加希望人数（2名まで）をご記入のうえ、「松濤美術館コンサート係」まで

◆当館学芸員によるギャラリートーク

4月22日（日）、5月12日（土）、18日（金）

各日午後2時～

*無料（要入館料） *事前予約の必要はありません

●館内建築ツアー

当館職員が白井晟一建築の美術館内をご案内します

4月13日（金）、20日（金）、27日（金）、5月4日（金・祝）、11日（金）、18日（金）、25日（金）

各日午後6時～ 30分程度

*無料（要入館料） *各回定員20名 *事前予約の必要はありません

■次回展のご案内■

「ダイアン・クライスコレクション アンティーク・レース展」

2018年6月12日（火）～7月29日（日）

■基本情報■

展覧会名 チャペック兄弟と子どもの世界～20世紀はじめ、チェコのマルチアーティスト

Those Children Keep on Playing; Children's Themes in the Works of the Čapek Brothers

会期 2018年4月7日（土）～2018年5月27日（日）

開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

※金曜は午後8時閉館（入館は午後7時30分まで）

入館料 一般1,000（800）円、大学生800（640）円、高校生・60歳以上500（400）円、
小中学生100（80）円

*（ ）内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 *土・日曜日、祝休日は小中学生無料

*毎週金曜日は渋谷区民無料 *障がい者及び付添の方1名は無料

休館日 毎週月曜日 *ただし4月30日は開館

主催 渋谷区立松濤美術館

後援 チェコ共和国大使館、スロヴァキア共和国大使館、日本国際児童図書評議会

協力 チェコ国立文学館、スロヴァキア国立美術館、プラハ10区、カレル・チャペック記念館、
GASK、チェコセンター東京

企画協力 株式会社イデップ

会場 渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14

電話：03-3465-9421 HP：<http://www.shoto-museum.jp/>

交通案内 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分

JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒
歩15分

お問い合わせ 渋谷区立松濤美術館

広報担当：吉井 (yoshii@shoto-museum.jp)

展覧会担当：清水 (shimizu@shoto-museum.jp)

電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366

※画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号を
お知らせください。

